

# 平成30年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

## 第5学年

教科	指導上の成果と課題の分析→	授業改善の具体的な方策
国語	<p>・昨年度末の達成率は81%であった。話す題材を設定することはできるが、相手に伝わりやすいよう構成を考えて話すことに課題がある。また、相手が話していることの要点をとらえながら話を聞いたり、最後まで話を聞いたりすることが不十分である。 【話す・聞く】</p> <p>・昨年度末の達成率は96%と高かった。しかし、文章の要点をとらえたり、段落相互の関係をとらえたりする力は高まりつつある。一方で、読み取ったことを表現することに課題がある。 【読む】</p> <p>・昨年度末の達成率は87%であった。漢字の細部を間違えたり、同音異義語・同訓異義語と混同したりする傾向がある。漢字の意味を確かめながら繰り返し学習するなど、継続した学習が必要である。また、語彙を増やすこと、言葉の特徴やきまりについて理解を深める必要がある。 【言語事項】</p>	<p>・伝えたいことの内容を明確にし、具体的な例を挙げて話すように、発表のメモを活用して、内容を伝えられるようにする。聞く際にも、聞いたことを交流させる場の設定や、話者の工夫に着目できるような観点を明示して話し合い活動を行う。</p> <p>・文章を要約させる活動を適宜取り入れる。話のまとまりやつながりを意識し、筆者の意見や人物の心情をとらえる力をさらに高めながら、それを自分なりに表現する力を身に付けさせる。</p> <p>・新出漢字は定期的に小テストを行う。漢字50問テストは合格点を設定し、習得できるまで繰り返し再テストを行う。語彙を増やしたり、言葉の特徴をとらえたりするために、国語辞典を用いて言葉の意味を調べたり、類義語・対義語を調べたりする等の学習を通し、言葉についての感覚を豊かにする。漢字を使った熟語や短文づくりなどの表現活動に取り組みせる。</p>
社会	<p>・昨年度末の達成率は93%と高かった。しかし、我が国の国土や産業に関する社会事象について把握し考察することは、定着している。調べたことや考えたことを分かりやすく表現する力に課題がある。 【思考・判断・表現】</p> <p>・昨年度末の達成率は70%と低かった。地図や資料を読み取る力がついてきた。得た情報を、適切に表現したり、関連させて考えたりすることに課題がある。 【技能】</p> <p>・昨年度末の達成率は97%と高かった。調べ学習は進んで行くが、その内容と社会科の用語や示す意味が身に付いていない。 【知識・理解】</p>	<p>・調べ学習を進めるにあたり、ゴールのイメージを明確にもたせるから取り組みさせる。多様なまとめる方法があることを指導し、伝えたい内容を相手に合わせて選択し、表現する力を高めていく。</p> <p>・資料から読み取れたことをまとめるだけでなく、それらを用いて説明したり、得た情報をもとに調べたりする活動を設けることで、読み取る力と関連させて考える力を身に付けさせる。</p> <p>・授業の導入やまとめで社会的な事象や名称などを確認させたり、既習用語をキーワード化して提示したりするなど、繰り返し復習して社会科の学習用語の定着を図る。</p>

算 数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度末の達成率は57%と低かった。特に小数のわり算において、問題文の意味を正確に読みとり、数の関係を考えて立式にすることに課題がある。また、その解き方について図や言葉等を用いて説明する力に課題がある。【数学的な考え方】</li> <li>・昨年度末の達成率は69%と低かった。小数のかけ算やわり算において、位取りについて課題がある。また、当該学年の前学年までの内容について習熟が必要な児童が数人いる。【技能】</li> <li>・昨年度末の達成率は67%と低かった。特に体積の学習において、特に何cm<sup>3</sup>=何m<sup>3</sup>や単位の変換に課題がある。また、体積の量感について、定着していない児童が多い。【知識・理解】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の読み取りを丁寧に行ったり、数直線に表したりする活動を取り入れることで、課題を正しく把握できるようにする。互いの考えを、ICT機器を活用し共有する場を設定することで、数学的な考え方の基礎を身につけさせる。</li> <li>・今後も、東京ベーシックドリルの診断テスト等の実施結果から、児童一人一人のつまずきを把握し、立ち戻る学習を行うことで、苦手を克服できるようにする。</li> <li>・単位についてレベルアップタイム等で繰り返す時間を設定することで、単位の変換や体積の量感について、定着を図る。</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度末の達成率は79%と低かった。児童が問題をつくり、仮説を立てることはできているが、それを解決するための検証方法を考えることが苦手な児童がいる。【思考・表現】</li> <li>・昨年度末の達成率は84%であった。条件を制御しながら実験・観察を行う力を身に付けていく必要がある。【技能】</li> <li>・昨年度末の達成率は88%であった。知識の定着に課題のある児童がいる。【知識・理解】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の仮説を立証するための検証方法を、教師と共に考えたり、友達と意見を交流したりする活動を多く設け、自分で検証方法を立案する力を育む。</li> <li>・予備実験を行い、実験の要点や安全面を確認することで、実際の授業において、視点を明確にした実験・観察を行う。条件制御を視点に、グループや全体で考えを出し合うことにより、論理的、合理的な結論を出させるようにする。</li> <li>・身近に体験できない事象には、視聴覚資料等も活用して理解を深めさせる。</li> </ul>
体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に適した課題の解決の仕方を考えて運動に取り組む姿勢を育てる必要がある。【思考・判断】</li> <li>・それぞれの領域での技能ポイントを把握できず、運動の特性（楽しさ）を十分に味わえない児童への手立てが課題である。【技能】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを効果的に使い、自分の力を確認して、課題解決できるようにする。同じくらいの力をもった友達と練習する場を設けて、話し合いながら練習奉納を工夫できるようにする。</li> <li>・運動がもつ楽しさを味わえるような個々の児童の能力に応じたスモールステップの場の設定や、補助運動から主運動につなげる展開を考えるようにする。また、ICT機器を活用し、動きのポイントを確認することで、技能の向上に努める。</li> </ul>
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて学習する家庭科に興味・関心が高く、学習した内容を家庭で実践する児童もいる。【関心・意欲・態度】</li> <li>・生活経験に差があり、調理では技能面で個人差が大きい。コンロや包丁など調理器具の基本的な使い方を身に付けさせることが課題である。【技能】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理や裁縫などの実習を通して、達成感や充実感が味わえるようにめあてや教材を工夫する。個に応じた課題を提示したり励ましたりしながら、担任・講師が休み時間等を活用し補充指導を行う。</li> <li>・実習では、一人一人に役割を明確にもたせ、基本的な技能が身に付けさせる。家庭科カード等を活用し、保護者に活動の様子を伝え、学校での取り組みを土台に、家庭でも取り組めるよう、家庭の理解を得られるようにする。</li> </ul>

